

第32回電波功績賞 「総務大臣表彰」「電波産業会会長表彰」受賞

2021年6月30日に第32回電波功績賞が発表され、「オープンRANによる5G周波数帯キャリアアグリゲーション技術の実用化」の功績により、無線アクセス開発部の安部田 貞行が代表となり「総務大臣表彰」を受賞しました。また、ドコモ・テクノロジー（現、サービスイノベーション部）の佐藤 篤とサービスデザイン部の廣橋 道夫が代表となり「聴覚に障がいのある方の生活を支援する『みえる電話』の提供」の功績により、さらに、無線アクセスネットワーク部の平本 義貴が代表となり、公益社団法人移動通信基盤整備協会、ソフトバンク株式会社、KDDI株式会社と連名で「全国新幹線路線における現行営業区間の電波遮へい対策完了」の功績により、それぞれ「電波産業会会長表彰」を受賞しました。

電波功績賞は、一般社団法人電波産業会（ARIB：Association of Radio Industries and Businesses）により、電波の有効利用に関する調査、研究、開発において画期的かつ具体的な成果をあげた者、あるいは電波を有効利用した新しい電波利用システムの実用化に著しく貢献した者に対して授与されるものです。今回の表彰では総務大臣表彰が2件、電波産業会会長表彰が5件授与されました。

総務大臣表彰の「オープンRANによる5G周波数帯キャリアアグリゲーション技術の実用化」では、第5世代移動通信システム（5G）におけるさらなる高速・大容量化を図るため、3.7GHz帯と4.5GHz帯の周波数を束ねるキャリアアグリゲーション技術（Sub6-CA）を世界で初めて実現し、O-RANインタフェース仕様を用いて異なるベンダの5G基地局装

置を相互接続したオープンRAN構成にて2020年12月より受信時最大4.2Gbpsの高速データ通信を実用化するなど、電波の有効利用に大きく貢献したことが評価されました。

電波産業会会長表彰の「聴覚に障がいのある方の生活を支援する『みえる電話』の提供」では、聴覚障がい者などの、声を聞き取りづらい利用者の電話連絡を支援するサービスとして、音声認識技術を利用して通話相手の音声をリアルタイムにテキスト変換し、スマートフォン画面に文字で表示する「みえる電話」のサービスを実用化し、一般のスマートフォンにアプリケーションをインストールするだけで利用可能な商用サービスを2019年3月に開始するなど、電波の有効利用に大きく貢献したことが評価されました。

同じく電波産業会会長表彰の「全国新幹線路線における現行営業区間の電波遮へい対策完了」では、新幹線トンネルにおいて携帯電話の通じない区間を2020年までに解消することを目指し、トンネル内およびトンネル付近の基地局への設備構築を進め、トンネル内を携帯電話事業者のサービスエリア化する作業を順次実施し、21年間の歳月をかけて2020年12月15日までに9路線、557トンネル、総延長約1,100kmの全国新幹線全トンネルの携帯電話サービスエリア化を完了し、電波の有効利用に大きく貢献したことが評価されました。

本誌に掲載されている社名、製品およびソフトウェア、サービスなどの名称は、各社の商標または登録商標。

